

8/7・8 米原と大津で
県教委が「意見を聴く会」

統廃合の根拠ごとごとく崩れる

みんなが知らないまま
地域の高校をつぶすな

住民町長議員教職員がいつしよに討論

8月7・8日、大津(コラボ
滋賀)と米原(文化産業交流会
館)で、県教委は県立高校の統
廃合に関する「県民の意見を聴
く会」を開催。両会場とも約70
人が参加。地域住民が多く、町
長、市町議、県議もいます。青
木次長の説明が終わると、次々
と住民の意見が上がり、「切磋琢磨
に手が上がります。「切磋琢磨

6～8学級の根拠は
なぜそんなに急ぐ
住民「あり方検討委員
会」では6学級が適正規
準」とする根拠は何か



愛荘町 町民の思い

模との意見が多かったの
に、藤田先生が「6～8
学級」とまとめた。なぜ、
多い方にのみ幅を広げた学
級で滋賀県は5・7、
今年5・9だ。全国で
は上から17番目だ。ほと
んどどの県が学校の適正規
模を「4～8学級」とし
ている。「6～8学級」
は都会を中心に11府県だ。
滋賀県はいつから都県の
県になったのか。

未松教育長(以下末松)
教科活動もだが、広
い出合いが必要だ。学校
規模を大きくすることで
切磋琢磨し教育効果が上
がり活力ある学校になる
。〔用意した文書を小
さい声で読み上げるが意
味不明。その後の質問で
も同じことを繰り返す〕。

小規模校なら多様な
出合いが少ないのか
教職員 大規模校のメリッ
トと小規模校のデメリット
を強調しすぎだ。「生
徒と生徒、生徒と教師の
関わりが希薄」という大
規模校のデメリットが書

大規模校で切磋琢磨
統廃合に導く虚構の暴論
参加者の多くは、この説明
に「統廃合先にありき」を
感じつつ、積極的に丁寧な
討論に参加していきま



末松教育長と藤田教授



討論を真剣に聞く地域の住民

は科学的には出せない。
「6～8学級」が絶対だ
とは言っていない。地域
性も配慮している。異論
もあつたが、委員会で話
し合った結果だ。
教職員 県の課題設定に
は違和感がある。「小規
模校では多様な出合いが
少なくなる」というのが、
現場の実感では、200
人の学校と1000人の
学校とで、出合いに大き
な差があるとは思えない。
大規模校だと思えない。大
規模校では多様な出合い
が少ない。これは高校で何
を学習するかという大きな
問題で、子どもの数の問
題ではない。

小規模校
全生徒の顔が見える
元教職員 以前、6学級
から3学級の学校に転勤
した。全校の生徒の顔が
見えるし、職員会議や研
修会で生徒の状況を出し
合いきちつと評価もでき
る。教師の交流と意志統
一がすすみ、さんさんだっ
た文化祭などの行事が見
え、文化祭などに行きつ
た文化祭などに行きつた
文化祭などに行きつた文
化祭などに行きつた文化
祭などに行きつた文化祭
などに行きつた文化祭な
どに行きつた文化祭など
に行きつた文化祭など

青木次長の説明

青木次長は、まず「滋賀の
県立高校が直面している課題」
を説明。①生徒の減少(小規模
な学校の増加)で、多様な個性
的な生徒との出合いが少なく、
切磋琢磨の機会が減っている。
②選べる科目数が限られ、
生徒の興味・関心にあった学
習ができない。③多様な教師
との出合いが少ない。教科指
導や校務が多岐にわたり、生
徒との関わりが希薄になる、
などです。

続いて、「どうしてこの課
題に直面しているのか」とし
て次の要因を列挙しました。
①生徒数の減少(平成47年度
までの推計人口を示す)。②大
規模校と小規模校による開設
科目数、部活動数、図書蔵書
数の差。③社会の急激な変化。
④生徒の多様化(高校、大学
への進学率の増加)。⑤県財政
と教育予算の推移。⑥厳しい
財政状況。

そして、「このままだと、
学校規模が一層低下し学校の
活力が低下し、学科の構成が
生徒の志望状況の間に乖離が
生じる」とシミュレーション
し、「魅力と活力ある学校づく
りを目指した統合・学科改編
など県立高等学校の再編が
必要」と結論づけました。
参加者の多くは、この説明
に「統廃合先にありき」を
感じつつ、積極的に丁寧な
討論に参加していきま

大規模校で切磋琢磨
統廃合に導く虚構の暴論

「目的意識や学習意欲
の低下」などは、生徒の
減少が原因ではなく、生
徒が増え社会の変化の中
で起こる課題だ。大規模
化したら少なくなる問題
ではない。逆に、小規模
校なら1人の先生が全員
の生徒を把握して、同僚
の間でも同じ生徒の状況

8月6日の4
郷
人への大きな
平和への大きな
流れて、それに
抗う者の姿を鮮明に写し
だした◆国連代表が初め
て広島平和記念式典に参
列。潘基文(バン・ギム
ン)事務総長があいさつ。
「広島と長崎に原爆が投
下された当時、私は1歳。
私は少年時代を朝鮮戦争
のさなかに過ごし、炎上
する故郷の村を後にして、
泥道を山中へと逃れた。
被爆者の皆さん、若い世
代の皆さん。皆さんは力
を合わせ、広島を平和と
希望の「震源地」として
きました。私たちがたと
もに、グラウンド・ゼロ
(爆心地)から「グロー
バル・ゼロ」(大量破壊
兵器のない世界)を目指
す旅を続けています。自
分たち、被爆者の方々が
生きていく間に、核兵器
のない世界を。自らの
戦争体験と被爆者の体験
を重ね、核のない世界を
目指す流れに身を置く◆
秋葉忠利広島市長は「核
保有国として今回初めて
米大使やイギリス、フ
ランスの代表も参加して
いる。今こそ、日本政府
の出番」と、日本政府に
「非核3原則の法制化、
核の傘からの離脱、黒い
雨降地域域の拡大」を求
めた◆菅首相は無神経に
「我が国にとって核抑止
力は引き続き必要だ」と
言い放ち、非核3原則の
法制化を退けた◆式典に
参加したルース米駐日大
使は大使館を通じて「核
兵器のない世界を目指し
今後も協力」とコメント
したが、記者は「黙秘」
を続けた◆潘基文氏と秋
葉氏の顔には人間的な真
剣さが溢れていた。菅氏
とルース氏の顔はこわば
り精彩はなかった。明暗
を分けたのは、核抑止力
論からの解放か、それへ
の依存か、の違いである。

地域の活力 高校に通う子が 街を歩き 買い物をする

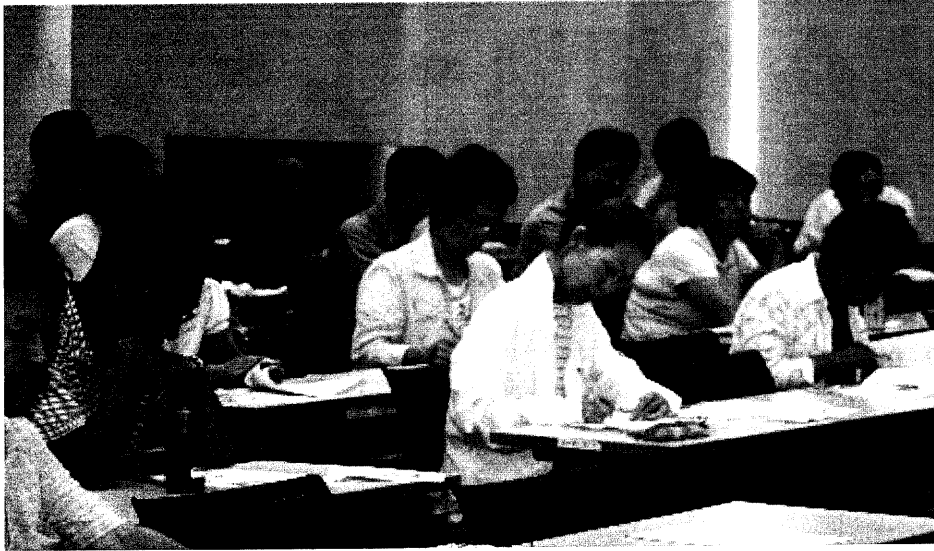
8年後の生徒数は今と変わらぬ

「子どもが減少」の根拠が崩れる

藤田 検討委員会では「お金がないから」とは言っていない(次長は、県の財政難を統廃合の要を迫っている)。ただ、費用対効果は考えなければならぬ。滋賀県と福井県だけが再編計画がなかった。

アルバイトが必要な生徒も沢山いる

元教職員 高校生一人当

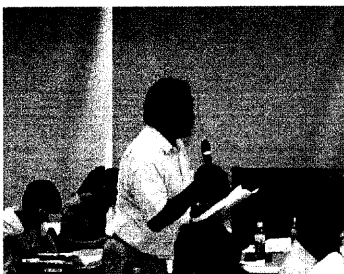


窪田室長の回答

いくつかの基本的な質問に窪田教育企画室長が回答しました(大津会場)。
 Q1 H47年度、25年後の生徒数の予想が必要なのか。子どもの数が減るのはいつからか。
 A1 H30年度からだ。
 Q2 H30年度の中卒生の予測は何人か。
 A2 14,423人だ。
 Q3 社会増を考慮しているのか。
 A3 考慮していない。
 Q4 H2年度とH22年度の平均学級数は。
 A4 8.0と5.9だ。
 Q5 統廃合がすでに進んでいる全国の平均クラス数はどれだけか。
 A5 全国は5.5、滋賀は5.7だ。
 Q6 35人学級ではなく40人学級を前提にした計画か。
 A6 40人学級で計算している。
 Q7 一校減ると予算がいくら浮くのか。
 A7 運営費は普通科で1校3000万円前後、人件費は管理職+事務職員分だ。



活力だ。高校生のイベンも住民に活力を与えている。学校がなくなると火が消えてしまう。学校への愛着がある。高校再編は地域の活力に大きく影響する。町内にある高校は自転車で通える学校。模範で切磋琢磨と言いが、アルバイトが必要な生徒も沢山いる。経済的に見ても地域が偏らずの町にも高校があるのがあるが本当か。
 町議(愛荘町) 1000年 窪田(教育企画室長)の歴史を閉じていいの。小規模校を否定するもの人づくりは都市だけでいいのではない。
 元教職員 通学距離を配り、他の要因がなければ再編もある。分校について



折込みチラシなど見て驚いている

教職員 現場の先生は統廃合について知らない人が多い。説明された課題について、わたしの知る限りでは、アンケート取ったり職員会議で話し合っ

35人学級を視野に 統廃合はできない

藤田さんが「35人学級は不可能だ」と断言され

北星がなかったら行く学校がなくなるかも

教職員 定時制には、さまざまな子どもが来ている。学級定員40人を前提に「定員未充足の状況を改善し」と言うのは実態に合わない。長浜北星は、去年の入学生は20人で今年には35人だ。定員20人を前提にしないと、「低学力」、不登校経験者、日本語がダメな子には対応できない。長浜以北の生徒は今でも通学が大変。北星がなくなったら行くところがなくなるかも。

これ以上公立高校を減らすのか

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

他府県は5学級で切磋琢磨

元教職員 切磋琢磨のために大規模校が必要というが、全国は多くが違う。京都の堀川高校では5学級で切磋琢磨をやっている。8、9学級なら、「町の中にぼつん」というようなもので、切磋琢磨にはならない。

「子どもの減少」の根拠はなかつた

子どもが減少するからというが、平成47年と言うのは25年後の数字だ。何故こんな数字をもってくるのか。いまから8年後の平成30年の数字は1万4,423人で、今と変わらない。しかも、社

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

根拠はなかつた

子どもが減少するからというが、平成47年と言うのは25年後の数字だ。何故こんな数字をもってくるのか。いまから8年後の平成30年の数字は1万4,423人で、今と変わらない。しかも、社

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

元教職員 この10年間、私立はクラス増で県立は立を増やそうとは思っていない。私立のことは私たちが決めるのではない。

